

千々石地域審議会

提 言 書

平成28年3月29日

千々石地域審議会

はじめに

昨年10月11日をもって10年の節目を迎えた雲仙市において、雲仙市総合計画に掲げる市の将来像「豊かな大地・輝く海と、ふれあう人々で築く、たくましい郷土」の実現に向け、市民が主役・市民総参加による、市の総力を結集したまちづくりを進められてこられたことに對し、心から敬意を表します。

さて、千々石地域審議會は、合併から平成26年3月に至るまでの8年間に渡り、合併後も地域住民の声を新市の施策に反映させるため、市長の諮問に對し答申するとともに、千々石地域が抱えている課題について、具体性・効率性のある解決策を提言してまいりました。

この度、私たち15名は、平成26年8月に市長から委嘱を受け、第5期地域審議會の委員として活動を始めて以来、市制施行10周年という節目を迎えた雲仙市のこれまでを振り返る総括的な視点に立ち、合併時に策定された「新市建設計画」を踏えて策定された「雲仙市総合計画」の執行状況に関する事項に係る市長からの諮問に對し、審議を行なうとともに、地域振興に関して、本地域のこれからの歩みを地域住民の目線から展望し、現状と課題を踏まえた解決策について、「人口減少対策」と「食材館ちぢわんもんの活用」をテーマとした提言書を取りまとめました。

委員一同、「住みたい・住みやすい」まちづくりの実現を切に願っており、その思いを千々石地域審議會の提言書として提言いたします。

平成28年3月29日

雲仙市長 金 澤 秀 三 郎 様

千々石地域審議會
会長 古賀 大八郎

目次

提言 1 : 「人口減少対策について」・ ・ ・ P 1

提言 2 : 「食材館ちぢわんもんの活用について」・ ・ ・ P 3

提言1 「人口減少対策について」

1. 現状と課題

本地域の人口減少は、市全域の人口減少率より速いスピードで進み、平成32年には4,100人以下になると推計されております。

その要因は、慢性的な転出者増による社会減と、少子化による自然減によるものと予想されます。

人口の減少は、地域経済及び地域の活力の低下を招くばかりではなく、集落機能の維持も困難になります。

このため、現に生活している住民はもとより、地域外の人々をひきつけることができるような魅力ある豊かな暮らしを創出できる千々石地域を目指し、施策を展開する必要があります。早期に人口減少問題への対応策を見出すことが課題となっております。

2. 特に

- ・定住から、結婚、育児まで一貫した支援を実施する必要があります。
- ・定住促進には「職」と「住」の要素の充実が不可欠であると考えます。しかし、本地域には、働き口となる雇用が少ない状況にあります。地域内での雇用の確保対策は今度継続的に取り組む必要がありますが、短期間で劇的な改善を図ることが困難な状況を鑑み、住環境を整備することで、定住人口を確保する必要があります。
- ・人口増加のためには、子育て世帯、新婚世帯などを地域に呼び込む必要があります。
- ・子育てしやすい環境の構築のためには、地域の協力が不可欠であるため、地域内で新婚世帯、子育て世帯を支える仕組みの構築が求められます。
- ・散発的な取り組みではなく、地域ごとに課題を整理し、目標を持ち継続的な取り組みを行う必要があります。

3. 具体的には

[定住に関する支援]

- ・本地域は、日本の自然百選、日本の白砂青松百選に選ばれた「千々石海岸」、日本の棚田百選に選ばれた「清水棚田」など住む人々の心を癒す情景や環境に加えて、良質で豊富な水資源も有しております。また、海側と山側の居住エリアの中央を国道57号線が縦断しており、長崎・諫早など市街地域への通勤も可能であることから、他地域に勤める方の心休まる安住の土地として、本地域の住環境の更なる充実を図る必要があります。
→例えば、本市の中央部に位置する愛野地域は、島原半島の交通の要衝として市内で唯一人口が増加してまいりました。愛野地域に隣接する本地域に、宅地を整備するなどの住宅施策に取り組み、愛野地域の人口増加を段階的に市内全域に波及させるといった戦略性を持った施策の実施についても検討が必要です。
→本地域の心癒す情景や環境は、住民にとって魅力の一つではありますが、風致地区に指定

第5期千々石地域審議会提言書

されている地区では、住宅の建設が制限されるなど、定住の妨げになっている場合があります。豊かな環境と住民生活の調和の取れたまちづくりのために、風致地区の指定について見直しなどを検討する必要があります。

→定住促進に関する補助制度を充実させ、移住希望者に対し、積極的に周知する必要があります。

→本地域内の生活道路の中には、狭小で、車両の通行が困難な道路も見受けられます。そのため、緊急時の対応に不安を抱える住民も多く、安心・安全な住環境づくりのためには、国道57号線の拡幅改良が必要です。

→本地域からの通勤圏には、長崎市や諫早市も含まれていますが、本地域からの公共交通アクセス網が不足していることから、通勤に不便であり、住民が市外への転居することが多いように感じられます。人口の減少に対する長期的な視野を持ち、国道57号線に接続する周辺道路環境を充実させ、広域農道や建設が予定される島原道路とのアクセスを容易にするとともに、公共交通機関のアクセス網の整備が求められます。

[結婚活動・育児に関する支援]

- ・市及びボランティア団体が実施する婚活事業について、周知が不十分であると感じられます。テレビや新聞などメディアを活用した周知広報の検討が求められます。
- ・結婚や育児については、夫婦の所得の状況が大きく影響することが考えられます。若者の就職支援から、婚活支援まで一貫した取組みを実施するとともに、新婚、育児世帯に対する市の補助制度の創設等の支援が必要です。
- ・子育てに対する負担が増大し、共働き世帯が増加しているため、学童保育や児童遊園など子育て支援施設の充実が求められます。

提言2 「旧食材館ちぢわんもん跡地の活用について」

1. 現状と課題

食材館ちぢわんもんは、農作物や、海産物を取り扱い地元産業振興の拠点施設として役割を担ってまいりましたが、惜しまれつつも閉店し、地域にとって大きな損失となっております。

指定管理者が決定し、今後、有効活用が図られると思いますが、本施設跡地は、国道沿いという好立地にあるだけではなく、広い駐車場に加え、公衆トイレを備えており、活用に対する地元住民の期待は大変高く、施設整備については、下記のような活用が図られることが期待されます。

2. 特に

活用にあたっては、次のような機能・活用が求められます。

- ①地域農業の維持・活性化、
- ②農業従事者の所得確保
- ③観光の一つの目的地として、観光客の受け入れができる施設
- ④青年農業従事者の活動拠点
- ⑤地域住民の交流

3. 具体的には

指定管理者とよく協議され、以下についての対応を望みます。

- ・閉店となった要因の整理、対策を行なっていただきたい。
- ・小規模に栽培している農産物や、少量の水産物であっても自由に出品できる施設とし、産業従事者が所得を得ることが出来る施設としていただきたい。
- ・生産者が自由に農作物を販売できるシステムでは、収穫の多い時期と少ない時期により、品揃えにムラが発生することや、販売に関しルールが必要となることが予想されることから、品揃えの充実、販売に関する仕組みの構築を目指していただきたい。
- ・大型の観光バスの駐車も可能な駐車場の整備により、観光客の受け入れができる施設としていただきたい。
- ・地元青年農業者が現在定期的で開催している「雲仙市4日連合会朝市」など、催しを継続して実施できるようイベントスペースの確保していただきたい。
- ・情報発信基地をつくり、千々石の観光案内（パンフレット、マップなど）の情報を発信していただきたい。